

教育支援センターだより

第31号 発行日 令和5年3月10日

子育てや家族、学校のことでも悩んでいませんか？



【子育てや成長・発達に関すること】

- ・ 反抗的になり接し方がむずかしい
- ・ 子育てに自信がもてない、子育てが不安
- ・ 落ち着きがなく、こだわりが強い

等

【学校生活に関すること】

- ・ 不登校のこと、登校しづり
- ・ 勉強についていけない
- ・ 集団にうまく入れない、友達ができない

等

ひとりで悩まず、お電話ください

★ご相談の流れ

受付 ☎：60-1899
60-1922（相談専用電話）

- ・ お困りのことについて簡単におうかがいします。
- ・ センターに直接来てのご相談か、あるいは電話でのご相談かの希望をおうかがいします。直接来られる場合は実際に教育支援センターに来所される日程や時間を決めます。

電話相談

ご相談の内容によっては、お電話で終了する場合があります。

初回の相談

- ・ お困りのことについてさらに詳しくうかがっていきます。
- ・ おうかがいした内容から、見立てや教育支援センターでどのようなことができるか方針をお伝えします。

終了

ご相談の内容によっては1回で終了する場合があります。

- ・ フォローアップ
- ・ 他機関の紹介

継続して相談する場合

☆ 保護者の方とは…

お子さんについての理解を一緒に深めながら、保護者の方が責任と自信を持って子育てに取り組めるようサポートします。

☆ お子さんには…

カウンセリングやプレイセラピー（遊戯療法）を通して気持ちの安定をはかり、自分自身や自分の行動についての理解を深めていきます。

*お子さんの理解をより深めるために、相談のなかで取り入れることがあります。

- ・ 発達検査、知能検査など
- ・ 医療相談（囁託医による）
- ・ 学校、病院など他機関との連携、連絡

相談の終了

教育支援センターでは、上記の教育相談支援の他にも、子どもと子育て家庭に対して様々な支援を行っています。

○スクールソーシャルワーカー【電話受付：60-1971 月～金 9:00～17:00】

小中学生の不登校や家庭の問題等の相談に対して福祉の専門職として学校訪問や家庭訪問、同行支援などを行います。

○チャレンジルーム【電話受付：56-2052 月～金 9:00～17:00】

不登校の小中学生が通う施設です。相談支援、学習支援、集団活動支援、進路指導などを行います。

○むさしのクレスコーレ【電話受付：60-1971 入室のご相談はスクールソーシャルワーカーへ。】

不登校の中学生が安心して自由に過ごせる居場所です。体験学習、個別相談、訪問支援を行います。

○帰国・外国人教育相談室【電話受付：54-8626 月～金 10:00～17:00】

帰国、外国籍及び国際結婚家庭の小中学生の日本語指導、言語サポート、学習支援、通訳・翻訳等の支援を行います。



★令和4年12月21日に開催した講演会の内容を要約して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

子どもの心とことばを豊かに育てるかわり

中川 信子 先生

子どもの発達支援を考える ST の会代表 (言語聴覚士)

日頃、お子さんとかかわる中で、“ことばがうまく出てこないな”、“ことばの力を伸ばすにはどうやってかわったらよいのだろう”などと思うことはないでしょうか。子どもとやり取りする中で、子どもの心とことばを豊かに育てるかわりについてご紹介します。

1. 子育てと発達

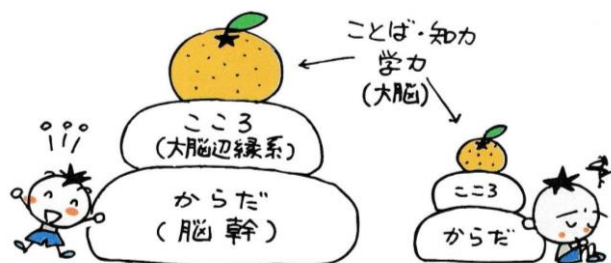
発達を考える際に、子どもは球根のようなものとイメージしてみてください。球根を育てる時には、土をつくり、水をやり、太陽の光に当てるようにするなど環境を整えながらお世話をするとお思います。球根がいつどんな芽を出すのか、何色の花を咲かせるかはお世話をしている人には決めることができません。芽を出す時期や花の色は、球根の中にもともと備わっているものが成長とともにあらわれてくるものなのです。この「お世話する」という部分が子育てにあたります。どう育つかを親が決めることはできないため思い悩むこともあると思いますが、大事なことは親子とも「からだが元気」で、「心がすこやか」であることです。



『1・2・3才ことばの遅い子』
(中川信子・ぶどう社)より

2. ことばのしくみと発達

ことばはからだと心の発達の上に成り立っています。ことばを鏡餅のミカンと考えてみてください。大きいミカンに乗せるためには、土台のお餅をしっかりと育てる必要があります。豊かなことばはすこやかな心の上に、すこやかな心は元気なからだの上に育ちます。



『ことばが伸びるしょうすな子育て』
(中川信子・日本家族計画協会)より改変

○ことばの言い間違いについて

2～3歳にはかわいらしい言い間違いが多く見られますが、5歳ごろには脳の発達とともに自然と治ることが多いようです。脳の働きが発達し言い間違いが少なくなるまでの間は、言い直しをさせるのではなく、正しい音をさりげなく伝え返すとよいでしょう。

例：カラスを指して「たあちゅ」と言った時

×「カラスでしょ。か・ら・す。言ってごらん！」

○「そうだねー。カラスだねー」



○発音 (構音) について

- 日本語の五十音がはっきり言えるようになるのは、4歳半頃が目安とされています。
- 2～3歳ではまだ個人差があり、早くからはっきり発音する子もいれば、遅くまで曖昧な発音の子もいます。
- 早い段階から言えるのはマ行・パ行・バ行 (ママ、パパ、ブーブなど) で、サ行・ザ行・ラ行は5歳半～6歳までかかる子もいます。

○ことばの発達ルール

発達の法則は大きく4つあります。

①言語発達は全体発達の反映である

ことばが発達するためには、右の「ことばのビル」の図のように全体の発達が必要です。ことばが出ることを頂点としたときに、その下には様々な発達や経験が土台として積み重ねられています。

②言語理解は言語表出に先行する (わかるのが先、言えるのは後)

体験を通して「わかる事柄」が蓄積され「ことばとして聞いてわかる」ようになり、その上で初めてことばが出ます。

③言語発達は本人の生得的要因（生まれつき）と周囲の環境との相互作用の中で進展する

子どもの「伝えたい気持ち」を育てるためには、周囲の大人が良い聞き手であることも大切です。

④発達初期には個人差が大きい

ことば以外にも睡眠時間や遊び方など、個人差が大きいです。

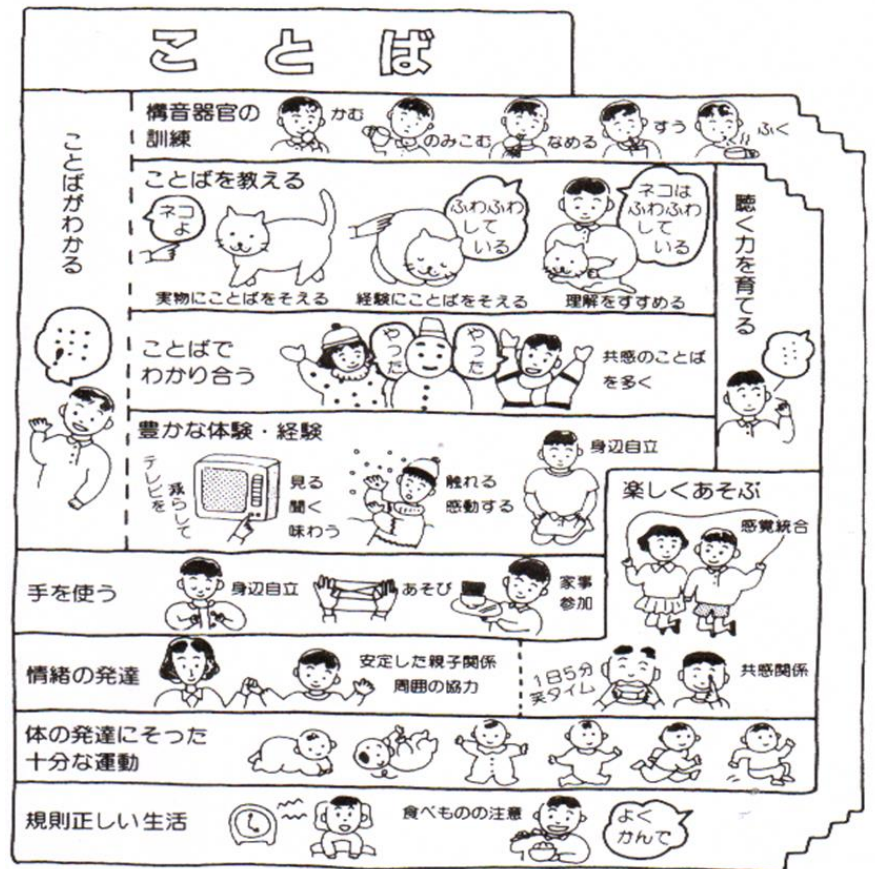


図 「ことばのビル」

『ことばをはぐくむ』(中川信子・ぶどう社)より

発達について気がかりなことはたくさんあるかもしれません。しかし、育ちの中で大切なことは「自分らしさ」「自信」「心の安定」です。困ったときには家庭だけで抱えず、園や学校、地域の中で相談することも考えてみましょう。

3. 育ちをうながすかわり

育ちをうながすために、こんな働きかけを意識するとよいでしょう。

① からだを使う遊び

日常生活や学校生活の中で重要な、見え方や聞こえ方、注意の向け方、気持ちのコントロールの仕方などには、脳の仕組みが大きく関係しています。それらの仕組みの発達を促すために「感覚統合」をすすめることが良いとされています。

「感覚統合」とは、からだを動かすことを通して多くの刺激を脳に送り、脳の働きを改善することです。そのために、からだを動かすいろいろな遊びが大切です。



『健診とことばの相談』(中川信子・ぶどう社)より抜粋

◇ 感覚統合をすすめるために、からだを使う大きな遊びをたくさんしましょう！

- ・揺れ…ブランコ、抱っこしてゆする
- ・回転…抱っこで回転、芋虫ゴロゴロ
- ・加速度…フロアカー遊び、滑り台
- ・上下動…トランポリン、高い高い
- ・触覚…抱きしめる、水遊び、粘土

②子どもへのことばのかけ方

子どもへのことばのかけ方を大きく4つご紹介します。

ミラリング

子どもの動きをまねる
例：子どもが手を叩いていたら、
同じ調子で手を叩く

モニタリング

子どもの声や音をまねる
例：「あ！」と言ったら、同じ音程で
「あ！」と返す

パラレルトーク

子どもの気持ちや動作を代わりに言う
例：転んだ子どもに「痛いね」と声をかける

セルフトーク

大人や子どものしていることをことばで言う
例：着替えた子どもに「はい、着替えました」と言う

また、以下のような働きかけがあるとよいでしょう。

- 肯定的なことばかけをしましょう。“ダメ”ではなく「してほしいこと（希望）」を伝える
(1) ×「洋服脱ぎ散らかしちゃダメでしょ！」→○「脱いだ洋服は、一か所にまとめます」
(2) ×「ほらほら、走っちゃダメ！」→○「ゆっくり歩くよ」
- 子どもの言い分を繰り返しましょう＝「あなたの気持ち、わかってるよ」というメッセージになる
例えば、子「疲れちゃったんだ」と言った時
×「疲れたとか言ってないで、ほら行くよ。みんなちゃんと行くんだから」
○「疲れちゃったのかー（まず一言繰り返すことで安心感につながる）。じゃあ一休みしてから行こうね」
- 子どもの「存在」と、子どもの「行動」は分けて取り扱しましょう。“叱るな、教えよ”
例えば、子がドアをバタン！と閉めた時
×「バタン！ってしないで！あんたはいつもそうなんだから！乱暴な子ね！（言わなくていいこと）」
○「ドアは、そっと、だよ」
- ことばがわかるようになって、視覚的な手がかりを上手に使いましょう
(1) ×「靴、そろえなさい！」→○「ほら、靴（指さす）そろえてね」
(2) 朝の支度の一覧を絵カード等で事前に作る
「どこまでできたんだっけ？」、「あとは何をすればいいのかな？」



ことばかけ 基本のキ ～大切なこと～

① 笑顔と、明るい声

口角を上げることを意識しましょう。表情筋が上がると声帯を引っ張り、自然と声が明るく、ワントーン高い声になります。すると、相手の耳や脳へ気持ちよく声が入っていきます。

② 子どもの名前は歌うように呼ぶ

一文字ずつ音を伸ばして息を長く吐き、歌うように呼びましょう。深い呼吸をすることで副交感神経が刺激され、リラックスした状態での会話につながります。



『1・2・3才ことばの遅い子』（中川信子・ぶどう社）より

無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。
問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号 0422-60-1899
0422-60-1922（電話相談・FAX）

